

大正琴 若きスター奏者



名古屋發祥の楽器「大正琴」が今、発売から百十年を迎えた。お稽古事の一
つとして多くの女性うに愛されてきた
が、近年は高齢化の影響で愛好者の減少
が進む。そうした中、普及のため企画さ
れた子ども向けコンクールで若手が頭角
を現し、男性のプロ奏者も登場。関係者はブーム再来の「兆しが出てきた」と期
待を寄せる。

(成田嵩憲)



高校卒業後も大正
琴の演奏を続ける
という橋本莉さん
=三重県度会町で

三重の17歳 橋本さん 努力家の高3

名古屋発祥の楽器「大正琴」が今月、発売から百十一年を迎えた。お稽古事の一
つとして多くの女性らに愛されてきた
が、近年は高齢化の影響で愛好者の減少
が進む。そうした中、普及のため企画さ
れた子ども向けコンクールで若手が頭角
を現し、男性のプロ奏者も登場。関係者
は「△再来の「兆しが出でてきた」と期
待を寄せる。

A photograph of a young man with dark hair and glasses, wearing a light-colored patterned shirt. He is seated at a workbench, focused on a task. On the bench in front of him are several small electronic components, including what look like transistors or diodes, some with red leads. He appears to be soldering or assembling something. The background shows a workshop environment with shelves and equipment.

大正琴は、左手で西洋音階の「ド・リ・ミ」の順に並んだボタンを押され、右手のピックで弦をはじいて奏でる。「気軽に誰でも演奏できる」と、大正琴に詳しい名古屋芸術大元教授の金子政子さんは話す。

重県立宇治山田高校三年の橋本利さん(二十七)＝三重県南伊勢町の男性一人。しげを削り、一八年以降はどちらかが最高賞に輝いてきた。
関係者によると、増田さんは才人。虫取内は貞姿

W 大正琴 名古屋市
大須観音近くで生き
音楽家の森田吾郎（187
）が開発した。1912（大
正9年9月）に発売し、そ
の高さが高まつた。太平洋戦争
になったが、70年代以降
楽しむ人が増え、「大
正」として定義した

名古屋発祥110年 再ブームの期待

兵庫の18歳 増田さん 天才肌のプロ

つたことがあるという。こうした状況を危惧した大正琴協会（名古屋市）は、二〇〇九年から「全国子供大正琴コンクール」を開催。一七年から文部科学省主催の国民文化祭の大会の一いつとなつたこともあり、参加者は増加傾向にある。近年、同コンクールで中高生らが出場するソロ部門に見詣め、「大正琴の伝統文化

普及の背景にスペイン風邪?
琴伝流大正琴全国普及会（長野県駒ヶ根市）の北林篤会長（59）は、大正琴が大正時代に普及した背景に、当時のスペイン風邪の感染拡大に伴う巣ごもり需要が関係한다고考察している。

年後の1918～19年。世界中でインフルエンザのスペイン風邪が猛威を振るった時期と重なる。日本も全国で多数の感染者が出て、感染予防で外出を控えたとされる。

「巣ごもり中に大正琴を弾き始め、広まつたのではないか」と北林さん。コロナ下でも「気軽に演奏できるので、改めて楽しぎに気付いてほしい」と話す